

四国中央 発・紙リサイクル共創モデル実験

瀬戸内 ⇒ 四国 広域連携を目指して

～地域循環共生社会づくり～

日本一の
紙のまち



しごちゅ〜 四国中央市



2025年 月 日

要・四国中央市ロゴ使用許可申請



目次

- ① 啓発活動のストーリーイメージ
- ② 啓発活動の多様な協働体制イメージ
- ③ 四国中央市の強みを生かした循環モデル
- ④ 当面の啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に
- ⑤ 第二次 四国中央市環境基本計画との親和性
- ⑥ 第四次 えひめ環境基本計画との親和性
- ⑦ 期待される成果イメージ
- ⑧ 本提案への思い
- ⑨ 将来的な啓発活動の広域展開への期待

(参考)

- ・ 雑がみさまを探せ！（雑がみ回収促進社会実験）
- ・ 紙リサイクルの重要性
- ・ 紙リサイクルとSDGs
- ・ Towards 2030 & Beyond ・ 古紙センターPDCA

1. 啓発活動のストーリーイメージ

各自治体では、ゴミ焼却施設の更新・統合や最終処分場キャパの課題が顕在化しつつあり、**資源循環型モデルの更なる推進**が急務。

本提案は、四国中央市を始め、県内の**各自治体が有するポテンシャルを最大限**に活かし、**「人・資源・地域経済」が循環**するローカル・エコシステムの推進を目指すもの。

紙リサイクル（特に雑がみ）を中核とした地域共創モデルを推進し、**「環境」「教育」「地域経済」**の3分野を横断的に結び付けることで**「見えるリサイクルの輪」**を目指す。

導入に際しては**既に四国中央市が有する**地域資源、制度、ネットワークを**最大限活用**しながら、持続可能な紙リサイクルモデルを**「啓発活動」を通じて「可視化」**する。

(起) 紙ごみや雑がみをめぐる課題の再認識

(承) 県の各市町村がこれまで積み上げてきた積極的施策と地域資源の可視化

(転) それらを有機的に統合し、**地域全体の参加型**で展開する循環モデルづくり

(結) その成果が県民生活の質を高め、**愛媛ブランドと環境施策の発信力**を高める

1. 啓発活動のストーリーイメージ

資源循環を共創の中核主体として、雑がみ回収・利用を地域コミュニティに根付かせる。

多様な生活者・事業者・行政を結び、その成果と意義を可視化・共有することで、持続可能な地域共生圏の形成を目指す。

3つの軸を有機的に構造化する。

(1) 「見える化」×「つながる化」

自治体や企業、団体との共創事例を公開し、「つながり」の存在を社会に共有。

(2) 参加共感型コミュニケーション

情報の一方通行脱却「わかる・できる・続ける」体験を設計。

(3) 地域コミュニティ内経済・価値の共創

地域の循環共生圏、地域経済や自治体の課題解決と一体化するメッセージを意識。



2. 啓発活動の多様な協働体制イメージ

行政

各市町村（資源リサイクル関連、福祉、教育委員会等）：施策調整、拠点整備、学校授業導入、公益施設運営

企業・商工会

スーパー、包装印刷、食品、信金、運輸等：店頭広報、ポイント制度連携、雑がみ袋広告、事業系雑がみ回収、SCCI連携

静脈・製紙産業

周辺エリア内の製紙工場、古紙問屋、回収収集業者：雑がみ受入、回収・品質管理、搬送

教育機関

小中学校、高校、大学（愛媛、松山、人間環境など多数）EMS活動、新入生環境授業、ボランティア活動、PBL型地域参加

市民団体

PTA、NPO、環境ボランティア：地域拠点協力、イベント運営、住民啓発

スポーツ団体（少年・プロ）

少年野球団・サッカー団等：集団回収、資源回収協力、啓発活動、保護者との家庭連携、エリア内のプロ球技チーム連携

福祉・高齢者団体

就労支援B型事業所、社会福祉協議会、老人クラブ等：拠点運営補助、見守り交流

メディア・研究機関

地元新聞社、TV、SNS、大学研究室等：広報支援、効果測定、全国展開モデル評価

需給両業界団体

古紙再生促進センター中・四国地区委員会、四国製紙原料商工組合：活動全般支援

3. 四国中央市の強みを生かした循環モデル

紙資源循環の中核都市へ

市内に存在する製紙工場と連携し、雑がみ等の地域発生紙資源を直接再資源化。地産地消型の紙資源循環拠点としてモデルの中心を担う。

紙ごみ課題の「逆転資源化」

可燃ごみに含まれる雑がみ類を回収・活用することで、ごみ問題を資源循環のチャンスへと転換。排出量の高さを改善余地と捉える構造に適合。

共創型の人材ネットワーク

地域の学校・大学・企業・住民団体との協働により、ボランティアや啓発活動が持続的に展開可能。共創社会の実現に資する人材基盤を育成・活用。

行政・業界・地域が連携

行政、紙関連業界、市民が三位一体で支える体制が強みの風土であり、他地域展開を見据えた未来を見据えたモデル地方都市としての展開を期待。



リサイクル資源の地産地消を支える製紙工場群

四国中央市は、全国有数の紙・パルプ製造拠点であり、製紙関連企業が多数集積する「紙のまち」である。市内では原料調達から製造・加工・流通までが一体となっており、紙資源の高度な利用インフラが整っている。従来よりこの産業基盤は、再生紙や雑がみなど多様な紙資源を効率的に循環させるうえでの大きな強みだが、本モデルを通じた拡張性を追求し、四国全体の紙リサイクル基盤の底上げに繋げ得る。

“紙資源の地産地消”を再確認することで、輸送コストや環境負荷軽減メリットや、地域内経済の循環性の情報発信を充実化し、地方都市に於ける全国のベンチマーク化を志す。

新規設備や格段の追加投資を前提とするのではなく、すでに地元地域が有する地域資源、制度、ネットワークを最大限活用しながら、段階的かつ持続可能に展開する**啓発活動モデルを可視化**。

4. 当面の啓発活動イメージ「雑がみ様を探せ！」を軸に（2025～26年度）

雑がみ啓発と学校教育との接続

県内小中学校において紙リサイクルに関する啓発活動「雑がみさまを探せ！」を通じた出前授業やワークショップを実施。「子供から家庭を変える、社会を変える」児童生徒や保護者の家庭内分別を促進。

広域エリア内の製紙工場群との連携

四国中央市を核とする域内には紙リサイクルの地域内処理・利用が可能な製紙工場群の存在があり、それらとの連携を通じた、紙資源リサイクルの地産地消を更に推進。

スポーツ団体との連携

スポーツ少年団の資源回収活動協力、運動と公共活動の融合を図る。集団回収活動の活性化、世代間交流の機会にも繋げる。また県内のJ2・J3・B2・独立L等、各プロチームとの連携を通じ、試合時の「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーンを図る。

市イベント・施設に於ける啓発活動

多くの県民が参加する市民イベント、祭り、環境フェアやリサイクルプラザ、公民館などを通じた「雑がみさまを探せ！」啓発を通じ、一人ひとりの参画意識醸成を図る。

大学生ボランティアとの連携

大学環境活動団体などを通じた、学生を募集、「雑がみさまを探せ！」運動の支援を通じた持続的な啓発活動の組織力強化、学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする。

地元企業との連携による資源循環

大規模商業施設、商店街店舗を通じた、地域ポイント利用・認証制度（「愛媛リサイクル応援店」等）による消費者との接点強化を推進。企業の紙袋への「雑がみ回収に利用」を訴求する表示協力。

5. 第二次 四国中央市環境基本計画（2019～2028）との親和性

「紙のまち」ならではの貢献

四国中央市の環境基本計画は、製紙産業と環境保全の両立を軸に、資源循環型社会の構築を目指している。本モデルは、紙資源の地域内循環を実現する取組であり、雑がみ等の未利用資源を掘り起こし、再資源化する。製紙のまちとしての強みを活かしながら、地域経済と環境の調和に寄与する構造を持ち、同計画の柱と親和性を持つ。

廃棄物削減・資源化率向上

全国各自治体同様に、可燃ごみ中に占める紙類の割合が高く、焼却依存や資源化率の低さが課題となっている。本モデルは、雑がみの分別・回収を通じて可燃ごみの減量と資源化率の向上を同時に実現する手法であり、同市が掲げるKPI目標の達成に資する具体的な対策として親和性を持つ。

市民・事業者・行政の協働

市計画は、市民・事業者・行政が協働して環境保全に取り組むことを基本姿勢としている。本モデルでは、住民や地域団体、企業との連携による分別・回収活動を重視し、地域全体の行動変容を促す設計となっている。協働型の仕組みづくりと、市民主体の参画を促す点において、計画の理念と実践レベルで合致している。

地域人材・教育機関との連携

市計画では、環境教育や地域活動を通じた担い手の育成が重視されており、学校や地域団体との連携が求められている。本モデルは、教育機関、学生、地域住民との協働を前提とし、体験型・参加型の紙リサイクル活動を通じて地域に根ざした環境意識を育む。計画が描く「地域循環共生社会」の実現と合致する方向性を持つ。

プロジェクト3 紙のまち・持続可能な循環型のまちづくり

項目	内容
リサイクル率の向上	リサイクル率の向上に向け、より良い分別体制を構築します。 「混ぜればごみ、分ければ資源」を徹底し、さまざまなタイプの古紙の分別など、古紙リサイクル率向上に向けた啓発活動を推進します。 古紙を自由に持ち込むことのできる回収拠点を、広く設置します。
回収拠点の整備	古紙類、古布類、アルミ缶等の資源ごみを地域で集団回収する組織や団体を広げます。 アルミ缶、スチール缶、リターナルびん、ペットボトル、牛乳パック、及び廃食油についても、古紙同様、回収拠点を広く設置します。 ビン・缶類等を可燃ごみや不燃ごみに混入させたくないよう、広く啓発活動を推進します。
市内企業等との協力体制の構築	回収拠点では、一定量の再生資源が安定して回収されるよう検討するとともに、回収した資源が速やかに再生利用されるよう、製造・販売業者とネットワークを構築します。 回収拠点としては、支所や公民館など市の施設のほか、スーパーマーケット、食料・飲料の販売店、コンビニエンスストアなど広く協力を依頼します。
マイバッグ運動の推進	機密文書については、製紙工場等と協力して処理体制を構築するとともに、排出事業者には、焼却せずに再生紙原料として持ち込むよう働きかけます。 スーパーマーケット、食料・飲料の販売店、コンビニエンスストアなどに対して、ごみの減量化やリサイクルに積極的な取り組みを働きかけます。マイバッグやマイ箸、箸袋などのエコグッズを企画し、販売等を検討します。
森林の恵みの保全	間伐が放棄された人工林の間伐を実施し、林床植生の再生などを促し森林の持つ多面的機能を強化します。 市産材を活用した住宅や事業所の建築・建設を促進するとともに、公共建築物への市産材利用を促進します。 適正な森林整備が進むよう支援するとともに、市有林や森林公園などの適正な維持管理や整備を実施します。 間伐・植林体験活動や自然観察など、森林教室等を企画します。
里地里山の恵みの保全	良好な里山環境の整備及び生物多様性の保全を図るため、放任竹林対策を実施する団体を支援します。 野生鳥獣による農林業への被害を軽減するため、防護網の設置や緩衝地帯整備、捕獲機具による捕獲の促進などを図ります。
生物多様性に配慮した地域づくり	地産地消の推進による地元産品への関心喚起、地域ブランドの開発支援、認証制度の実施などにより、魅力を発信します。 里地里山地域への移住・定住の促進、集落の活性化を支援する人材の配置などにより、地域の持続可能なコミュニティづくりを行います。

参考：第二次環境基本計画より

6. 第四次 えひめ環境基本計画（2025～2030）との親和性

地域循環共生圏の理念共有

愛媛県環境基本計画の柱である「地域循環共生圏の実現」は、本モデルの根幹と完全に一致する。紙資源という地域特有の資源を、域内で発生・回収・再生・活用するサイクルを構築することは、地域で資源・経済・人の循環を生み出す取り組みそのものであり、計画が掲げる「地域主導の持続可能な発展」と親和性を持つ。

教育・人材育成方針との一致

県は次世代を担う人材への環境教育の推進を明記しており、「学び」「実践」「地域参加」の融合が求められている。本モデルは、学校や地域団体と連携し、紙リサイクルをテーマにした体験型教育・出前授業・地域運動型イベントを展開する方針であり、学齢期からの環境意識醸成や地域参画型の人材育成という計画方針に沿う。

廃棄物削減と資源循環強化

県計画では「循環型社会の形成」に向けた取り組みとして、廃棄物の減量・リサイクル率の向上・資源の有効活用が重点施策とされている。本モデルは、特に回収が進んでいない「雑がみ」の掘り起こしを地域全体で推進し、再生資源として地元製紙業に供給する仕組みを構築するもので、循環型社会づくりの実践例にあたる。

地域産業と環境との調和

県計画では「環境と調和した産業活動の推進」も柱の一つとされており、地域資源を活かした脱炭素型産業構造への転換が求められている。本モデルは、地場の製紙産業と紙リサイクルを連携させ、資源循環と地域経済を同時に回す産業モデルを構築する取り組みであり、県の示す「産業と環境の共生」の具現化に資する事例といえる。



2025(令和7)年2月

愛媛県

7. 期待される成果イメージ（順不同）

- ・ 雑がみ回収量の増加、可燃ごみに占める紙ごみ比率減少
- ・ 紙ごみによるCO2排出削減効果の定量化
- ・ 域内製紙工場とのマッチングによる資源地産地消モデルの加速
- ・ 小中高校生・大学生・高齢者・地域住民のリサイクル意識向上と世代間交流の促進
- ・ 高齢者との交流機会創出による地域コミュニティの活性化、孤立防止
- ・ 障害者の地域参画による共生社会モデルの実証と福祉的就労の場の創出
- ・ 紙リサイクル業界における次世代担い手の掘り起こしと職業理解の深化
- ・ 行政・住民・業界がともに成果を実感できる、参加型の循環型地域社会モデルの形成
- ・ 近隣自治体、四国各県、更に全国への波及効果 等々

↓ 5%

燃えるごみ量削減

「雑がみさまを探せ！」
を通じた分別底上げ

↓ 5%

ごみ排出量削減

1人1日当たりの
ごみ排出量削減

↓ 15%

紙ごみ比率減少

家庭系の燃えるごみに
占める紙ごみの比率減少

1000+

啓発参加者数

多世代の市民参加による
コミュニティ活性化

8. 本提案への思い

これら一連の対策は四国中央市を始めとした「先進的な施策を展開」してきた**各自治体**において、**すでに個別には推進されてきた**要素である。

今回の**啓発モデルづくり**では、それらを有機的に結合し、回収・啓発・再資源化・教育・経済の各分野が一体的に連動する**“リサイクルの輪”**として、**県民に視覚的・体感的に可視化される仕組み**を目指したい。

これにより、県民一人ひとりが**地域循環への参画を一層、理解・実感**でき、**長年積み重ねてきた資源循環の取り組みが、より広く認知**され、成果として花開くことが望まれる。

SDGs未来都市、ゼロカーボンシティ宣言都市を有する愛媛県において、紙ごみを中心とした可燃ごみ削減の実践は、温室効果ガス削減や持続可能なまちづくりの成果指標とも直結するものであり、**地方自治体の環境政策の模範事例**として、他自治体に発信されることを期待する。

9. 将来的な啓発活動の広域展開への期待

四国中央市での「雑がみさまを探せ！」を通じた啓発モデルは瀬戸内エリアにて隣接する「左右型段階的」展開可能なスケラブル（拡張可能性）構造を有する。まず2025～26年度に四国中央市で啓発活動はじめ、諸課題の整理を実施し、成果を蓄積。

2026～2027年度には人口構成、地理構造、リサイクルインフラの観点で本モデルとの親和性が高く、また、地産地消型の紙リサイクルが成立しやすい環境にある、愛媛県西側エリアの新居浜、西条、今治、そして四国最大都市である松山市等の自治体と連携拡大し、広報、リサイクル啓発の共通化を進める。

2027～2028年度以降には更に、香川県東側（観音寺、三豊、高松、丸亀市等）に繋がるモデルへと展開し、製紙産業、静脈産業と自治体のクロス連携を加速。段階的・実証型のモデル普及を通じ、広く県民の紙リサイクル参画への理解向上に繋がることが望まれる。

以後、更に四国エリア全体への拡大を目指し、2030年頃には広域環境政策への反映を目指す「四国・雑がみ資源循環ネットワーク」を念頭に置いた、より広域に於ける資源リサイクルの全体最適化活動なども視野に入れたい。

(参考) 雑がみさまを探せ! (雑がみ回収促進社会実験)

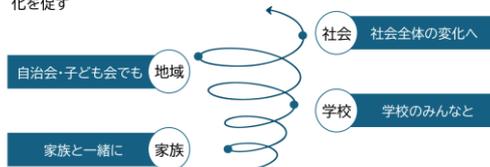
目的

雑がみの認知度向上並びに分別・回収の習慣づけを目的とした啓発活動
 ⇒ 幼少期(学童期)からの分別習慣の効果は大きく、未来にわたって環境配慮行動を行う人材育成につながる



目的

子どもを発信源として家族と一緒に取り組むことで、同居する親世代の意識変化を促す



「子どもを変えていくことで親を変え、社会を変えていく」

効果(自治体・業界)

可燃ごみに捨てられる雑がみ回収促進を進めることで、可燃ごみの削減や新たな製紙原料の確保につながる



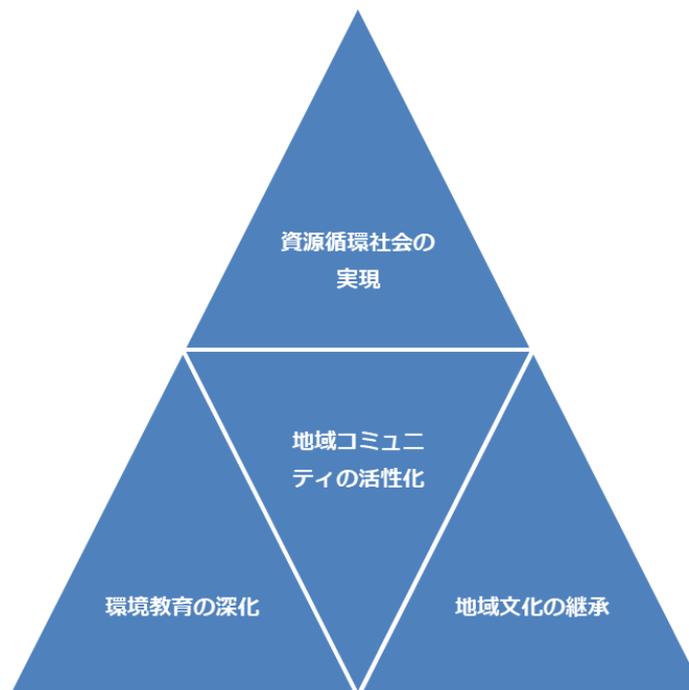
「雑がみさまを探せ!」は、いかにして子供たちに家庭での雑がみ分別に誘導するかを、大阪大学大学院経済学研究科・松村真宏教授(仕掛け)と当センターが連携する新たな試み。

仕掛けのアプローチとは、正論(従来の正攻法)で解決しなかった社会課題を正論は使わずに参加者(小学生)が興味を持ちそうな「仕掛け」を利用することで、結果的に望ましい行動を実現し、その後も親世代を絡めて、家族で継続しやすい仕掛けを狙う。

子供達への「仕掛け」コンセプト
 紙=カミ(神) ⇒ 家庭の中には、神(紙)様・「雑がみさま」が宿っている。

一般向け

(参考) 紙リサイクルの重要性



紙リサイクル、とりわけ家庭や地域から排出される「雑がみ」は、その性質上、行政・業者・市民の協働によってのみ更なる分別と回収が可能となる分野。

また、資源循環・地域交流・環境教育・福祉・社会包摂といった複数の公共的価値を同時に実現できる特性を持ち、地域循環共生社会の実装モデルとして即効性が期待される領域。

(参考) 紙リサイクルと SDGs

SDGs・紙のリサイクルが果たすべき役割

(2022年制定)



4 質の高い教育をみんなに

■紙のリサイクルの役割

⇒紙の再生品の利用、リサイクルを学べる教育の機会を提供する



11 住み続けられるまちづくりを

■紙のリサイクルの役割

⇒使用済の紙を分別して再利用を図り、資源の有効活用を図る



12 つくる責任 つかう責任

■紙のリサイクルの役割

⇒製紙業界のリサイクル可能な商品開発の推進に貢献する
⇒消費者の持続可能な社会形成への参画意識を醸成する



13 気候変動に具体的な対策を

■紙のリサイクルの役割

⇒ごみの資源化による脱炭素社会の実現に貢献する



15 陸の豊かさも守ろう

■紙のリサイクルの役割

⇒森林資源の持続可能な利用に貢献する



17 パートナーシップで目標を達成しよう

■紙のリサイクルの役割

⇒多様なステークホルダーが連携し、持続可能な社会を実現する

日本の紙リサイクルは国民の分別意識の高さや善意に支えられ、また長年にわたる関係者の努力の結果、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成にも大切な役割を果たしてきた。

当センターは、消費者や事業者を始めとした紙リサイクルに関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広報啓発、調査研究等の事業を通じた古紙の回収や利用の促進に向けた約半世紀弱の歴史を積み重ねている。

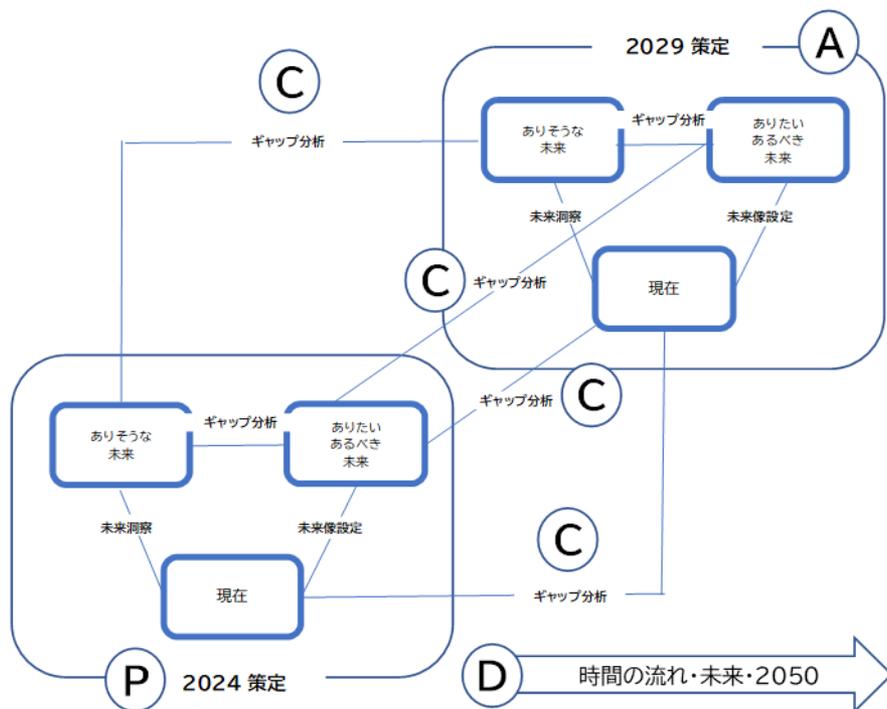
時代背景や社会が変化してきた現在も変わらず、むしろ様々な社会課題が深刻化し、国際社会がSDGs（持続可能な開発目標）の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、原点に立ち返ったセンター活動がより一層重要になると考える。

当センターは創立半世紀の節目に向け、活動を支えていただいている皆様とともに、まずは紙リサイクルとSDGsとの関連性を再確認することを2022年にスタートした。今後も多様な立場の方々との共通言語ともいえるSDGsを通じて、小さな連携の積み重ねを大きな力に繋げ、紙リサイクルの更なる発展を目指す。



(古紙センターSDGsレポート)

(参考) Towards 2030 & Beyond・古紙再生促進センターPDCA



当センターは創立半世紀を迎えたが、その節目に当たり多くの関係者の方々から寄せられた「20」の中長期課題（サステナブルチャレンジ2050・共創共生）をお示しした。本年度から、一連の課題対応に向けての具体的な対策や、新たな試みを開始するに当たり、ロードマップイメージである「Towards 2030 & Beyond」を策定した。

様々な社会課題解決に向けた布石は2030年までがラストチャンスであり、その影響が未来の可能性を左右すると言われる時代にある中で、環境・経済・社会側面の統合的向上や、リサイクルに関わるマルチステークホルダーとのパートナーシップを念頭に置いた事業を通じて、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手としての、更なる努力が当センターにも求められている。

今後の課題対応については需給両業界の協働に加えて、これまで以上に広く、紙リサイクルに関わるステークホルダーが、改善できる技術や意識改革を総動員した、統合的なシナジーや全体最適を議論すべき時期にある。



「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」



「Towards 2030 & Beyond」



「創立 50 周年記念誌」

当面の啓発活動・検討についての「一例」（順不同）

本モデルの定着化に向けた**啓発実験事業「雑がみさまを探せ！」**を軸に（2025年）

- ・ 四国中央市内の愛媛大学 紙産業イノベーションセンター（PiICE）連携（協定締結も視野）
社会貢献活動の一環として、文理融合型・実践型・キャリア教育（社会共創学部 産業イノベーション学科 紙産業コース）、紙の総合マッチングサイト「四国は紙国」との連携。
- ・ 県内大学生の啓発ボランティア確保
愛媛、松山、人間環境、聖カタリナ、松山東雲女子大等の啓発ボランティア確保。
「雑がみさまを探せ！」支援を通じた、継続・持続的な啓発組織力強化、学生自身の社会課題解決体験のきっかけとする試み。
- ・ 商工会議所青年部との連携、関連企業先での継続的な「ローテーション」回収運動
- ・ 愛媛FC、FC今治(J2)、愛媛オレンジバイキングス (B2)、愛媛マンダリンパイレーツ(IPBL)
地域貢献連携、試合会場での「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン
- ・ 生涯学習拠点（四国中央ふれあい大学）連携による、啓発対象世代の拡大
- ・ 四国中央市、及び関連エリア内のSDGs・環境フォーラム連携、公開授業提供、WS、
その他市内イベント（四国中央紙まつり、産業祭り&グリーンフェスタ、市民文化祭、伝統行事、その他イベント）での
「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーン
- ・ 「雑がみさまを探せ！」回収啓発ボックス寄贈・設置実験
（人口減の地方自治体の持続的な紙リサイクル基盤維持に向けた「ラストワンマイル」対策。産官民連携による共助型・補完的社会インフラを目指して）
四国中央市内の小学校（19）中学校（7）高校（3）市内公民館(20) 支所・出張所(5)
図書館(5) 紙のまち資料館、道の駅、商業施設（ドラッグ、家電量販、ホームセンター、スーパー、モール等）
*いずれも少量回収・非経済性、利害関係者との課題、単なるゴミ捨て場化のリスクあり。…

キャラクター コラボレーションイメージ

しこちゅ～のデザイン解説

「四国中央市」の音を短縮した「しこちゅ～」の「チュ～」から連想されるネズミ

山間部

平野部



要・四国中央市ロゴ使用許可申請